

# 自由律俳句協会

ニュースレター六号（令和元年八月四日）

編集責任者\*吉本知裕

## 第2回自由律俳句協会総会を開催します

佐瀬広隆

自由律俳句協会が発足して一年が過ぎました。「出来る事から」を合い言葉に電子書籍の出版、ニュースレターの発行、ホームページの作成、文学フリーマーケットの参加と比較的費用のかからない事業を展開してきました。この間に木村緑平の顕彰会への協力等もありました。また自由律俳句協会が数人の設立準備会から六〇人程になり、一步を踏み出しました。一般に認知されるには程遠いことではあります。結社ではない協会としての姿を見せてきたことは

確実です。自由律俳句のノウハウを提供し、多くの結社が自由に意見を述べ合い互いに協力し合えるよう橋渡しする組織は確実に望まれます。地道な努力を重ねることでこの自由律俳句協会がその魁になれるよう今後とも力を尽くしてゆきたいと思えます。

総会はこの自由律俳句協会を有り様を決める大切な機会です。協会の活性は、皆様の意志にそって行われなければ、生まれてきません。第2回総会を10月27日（日）に開催します（最終ページ参照）。皆様の意見を総会で出席して直接に、また欠席でも書面などでお寄せいただき、未来志向の自由律俳句協会を創っていかうではありませんか。

## 協会主催の公開シンポジウム開催へ

寺田和可

10月27日（日）の総会後に、協会主催のシンポジウムを計画しています。こちらは、協会員に限らず参加していただける「公開シンポジウム」とします。

有季定型の伝統俳句のような決まり事のない自由律俳句において、「自由律俳句とは何か」という根本の認識さえも一様ではありません。しかし、そうした多様性もまた、自由

律俳句の明日を拓く可能性かもしれません。

シンポジウムでは、結社・グループの枠を越え、さまざまな自由律俳句観をもつ方たちの考え方を知り、語り合う場とすることで、新たな発見・気づきを得、刺激しあう機会を提供することを目指します。若い世代の声も、ぜひ聞きたいと思います。今回は東京での開催となりますが、遠方の会員の声を集める方法も、模索していきます。

協会若手メンバーのさいとうこうさん、梶原由紀さんにもチームに参加してもらって、プロジェクトが始動しました。詳細は、総会のご案内や次号ニュースレターでまたお知らせします。皆さまにも、今後、いろいろご協力をお願いしていくことになるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

★まずは、シンポジウムの中で取り上げる話題として、自由律俳句に関して「こんなことについて、考えを聞いてみたい、話し合いたい」ということを募集いたします。シンポジウムに関するご意見もお待ちしています。次のメールアドレスまたは協会事務局までお寄せください。

wakat.jiyuritu@gmail.com

## 自由律俳句への窓 その四

佐瀬広隆

### 長律の実験

前章では、短律について述べましたが、今度は長律について知る事を書いてみます。「長さにこだわらず、一字一句無駄なく表現された句が自由律俳句である」と井泉水は述べています。自由律俳句では短律があれば長律もあります。定型と同じ十七文字の俳句もあります。十八文字になったから、一字減らした言葉で入れ換えるそうしたことはいらないのです。あくまで、己の感性に即した言葉を選び、調子をあわせる、十七文字の約束に拘らない態度です。井泉水は自らの自由律俳句への道程を「ででむし」に託し表白しました。

ででむし生まれている

ででむし長い細い道歩みきし歩みをとどめ

最初の短律の句は、井泉水開眼の句といわれています、またその句が開眼の句であると自らも認めています。

「梅雨時期小さな殻を背負って、角を出し頭を右左にふり、辺りを見回している。好奇心にあふれゆつくり歩く生ま

れたばかりの蝸牛の有り様に、これから未知の新しい俳句の道へ行こうとする己をみた気持ち」、そうして、この句が生まれたのだと思います。

後者の長律の句は、「大きな殻を引き摺るようにして歩いては止まって頭を回す蝸牛に眼をとめ、自らの歩んで来た俳句の道を振り返る。俳句の道は奥の深い長い細道、その道に私は心血を注ぎ歩んできた。」井泉水は蝸牛の仕草に自らの心境を重ね合わせて句にしたものだと思います。

この長律句の長い表現のリズムは、晩年に近い作者のゆっくりとした心境のリズムに添うていると思います。また「長い細い」と「道」を説明していますが、芭蕉へ強い思いをもつ井泉水の気持ちから見れば、「奥の細道」に通じる自らの俳句の道への表現は欠かせないところ、「長い細い道」は句の中に必要となります。そして、「歩みをとどめ」は井泉水の感慨を吐露したもの、この句の一字一句どの一つも省けない、省けば井泉水の思いが消えてしまう、そんな句になっていると思います。

こうした層雲の自由律俳句は短律や長律の実践を通して、長さに拘らない己の持つリズムで自在に俳句の一行にする新たな道の俳句、自由律俳句へと発展してゆきます。

層雲の作家による長律の俳句（層雲第二四句集、層雲自選句集四）を挙げてみます。

しよりしより雪の高下駄にとけるふるさとにきて御近所  
あるく  
池原魚眠洞

泣きたくて笑ってゐる風が木の葉ころがしてゆく

平松星童

雪の日はことにしづづかにしてくれるのでけんおん器の  
ふた  
瀧山重三

死んでしまわれた先生のところへいけるかもしれない  
いお天気  
吉沢稲市

遠くつづく貨物列車の音の長い長い夜になっている

吉田六郎

せきばくのきわみ白頭鷺に紙風船落つ

和田光利

年月、ケロイドの皺すなわち老いの皺となる

松尾あつゆき

終電車の尾灯が風にのこしていったままの悔恨

筒井風荃亭

ふたたびは踏むまいと思った祖国の土に種をまく（復員）

高橋白露

この子を灰にするひと山のわらのいくばくかの金を拂う

三好草一

胸に汗する夢にさまされて午後の日少し秋に傾く

池沼両間子

\*長律も無制限に長くてよいということではなく、「一息で言える長さ」と井泉水は言われます。上田都史は二十二文字がその限界と述べています。左記の長律句の中で三十二文字がありますが、長いと響きあう韻性が少なくなる傾向がでてきます。長さの限界を意識する必要はあるのではないかと思います。

\*前の号で「上田都史はそれを二十六文字以内」の記述をしましたが、それは誤りで二十二文字に訂正させて頂きました。

## 雑感

俳句の歴史を眺めてみると、子規、碧梧桐、乙字、井泉水の行ってきた俳句の革新に流れるものは、芭蕉のいう「俳句の風雅の道と不易流行」を時代に合わせようとする強い思いだったように思います。明治以降になって、「風雅」は「詩」へ、そして「不易流行」について前部分の「不易」は「詩心の表白は変わることはない」、後の部分の「流行」は「表現の方法は絶えず時代に添うように革新また変化させてゆかねばならない」ということかと思えます。

俳句は、日本独特の文化です。肝心なところは守り、絶えず時代に添うように変化させてゆく必要があると先人は教えます。

浮世絵が西洋の絵画へ多大な影響を与え、印象派からキュービズム・抽象画へ発展していった経緯は好く知られて

います。俳句もまた日本の文学として西洋の詩へ影響を与える立ち位置にあると信じます。西洋の微細な写実的態度ではなく、簡明な切り取りによる自然、事物の把握とと思います。私は、自由律俳句は俳句であるという認識に立っています。本質的にみれば、現代にあつては定型律より自由律のほうが芭蕉の教える俳句に近いと言えると思います。

## 参考文献

原泉 萩原井泉水 昭和三五年六月 層雲社

長流 萩原井泉水 昭和三九年十一月 層雲社

層雲第二四句集 萩原井泉水 昭和二八年十一月 層雲社

雲自選句集四 伊藤完吾 昭和五六年十一月 層雲社

自由律俳句とは何か 上田都史 平成四年 講談社

## \*寄せられた声から

「自由律俳句への窓」について、会費振込用紙の通信欄にこんな声をお寄せいただきましたので、ご紹介いたします（会計より）。

「多忙につき自由律俳句協会に不参加を申し上げていましたが、ニュースレターで佐瀬広隆さんの文章を拝見し、わかりやすく共鳴する部分も多く、やはり参加させていただくことにしました」

\*皆様からの声も積極的にニューズレターで紹介させていただきますので、ぜひ事務局にご意見・ご感想をお寄せください（ニューズレター末尾の住所・メールアドレスまでお送りください）。

## 松尾あつゆき著「原爆句抄」を

### 電子書棚に納めました

新山賢治

長崎県出身の俳人・松尾あつゆきが昭和四十七年十月に発行した「原爆句抄」（非売品）を当協会のホームページ、「電子書棚」に納めました。

昭和二十年の八月九日、その日、松尾あつゆきは勤め先が長崎市内から離れた処にあったため被爆は逃れましたが、市内の家にいた、四人の子のうち三人、そして妻を失った。

こときれし子をそばに、木も家もなく明けてくる  
すべなし地に置けば子にむらがる蠅

この世の一夜を母のそばに、月がさしている顔  
かぜ、子らに火をつけてたばこ一本  
ほのお、兄をなかによりそうて火になる

あわれ七ヶ月のいのちの、はなびらのような骨な  
くりかえし米の配給のことをこれが遺言か  
なにもかもなくした手に四まいの爆死証明

「原爆句抄」には被爆直後から昭和四十七年までに生み出された、原爆に関わる二百句が掲載されています。また、最後に添えられた「爆死証明書」という手記は壮絶です。

序文を寄せた荻原井泉水はこう記しています。

「そのときの敦之の気持ちは、涙も涸れてしまった後に魂からしみ出る涙であり、嘆息する息もとまったのちの嘆きの息である。言葉として人に語る言葉ではなく、己れが己れに言いふくめるほかはなき言葉である。これこそ正しい意味の詩、ほんとうの意味の句なのである。そしてやはりその意味で、この気持ちは短歌でも書けず、また定型俳句でも書けない自由律俳句の特有の力強いリズムではないかと思う。」



自由律とは何か、悶々とした自問自答の中にある人は、ぜひこの句抄を読まれることをお薦めします。

この「原爆句抄」を電子化し、永久保存版として固定することに奔走されたのは自由律句報「常磐ネットワーク」松岡月虹舎氏です。「常磐ネットワーク」では松尾あつゆきの原爆以外の句も特集しています。「編集室」までお問い合わせください。

〒305-0035

茨城県つくば市松代4-28-429-104

松岡月虹舎方

## 文学フリマに参加して

そねだゆ

5月6日に開催された「文学フリマ東京」。約1000のブースが並ぶ東京流通センターは、とても広大でした。この文学フリマでは小説や随筆、自由詩のブースがメインで、はじめから「自由律俳句」を求めて来場する人は限られます。「自由律俳句協会」のブースの前で足を止める人たちも、自由律俳句とはどんなものかを知らない人がほとんどです。このとき近づいてきた若者の一人に名刺を渡したところ、その後メールをいただきました。関心があるようだったので、東京で行われた「自由律俳句フォーラム」に誘ったら、

来てくれました。彼とのメール交流から、文学フェスタやその来場者の考えに気づいたことがあります。

自由詩と自由律俳句は別物と認識されていますが、現代の若者にとって根本的には距離はないと感ずます。ただ、自由律俳句そのものに対する向かい方がわかっていないということだと思っています。

私見では、季語や定形に頼らない自由律俳句という形をとるときに配慮すべきことは自由詩と共通であり、また、いずれも基本的に作者自身の感性に基づく詩性が重要だと思いますが、それが伝わっていないのです。

若者の自由律俳句作家への関心は、最近映画にもなった住宅顕信など、作家人生に物語がある作家に限られているように感じます。学校では、俳句や自由律俳句が扱われていますが、風にはなっていないところが問題です。

「俳句」という枠を越えて、感性の表現を求める若者たちにアピールする機会となることは、文学フリマを利用する大きな意味だと思います。そして、もっと目に見える形、例えば文庫本サイズくらいの句集で作品を発表できるなど、若者にわかりやすい目標を示すことも考えるべきなのではないかと思っています。

今後の文学フリマ参加に向け、自由律俳句協会としての目標設定や対応策のヒントが得られたように感じています。

投句欄  
自由律の泉  
②

- 1 水たまり残る薄雲  
田中 美太
- 2 二人合わせて一五六歳ほうじ茶がうまい  
白松 いちろう
- 3 生まれ変わる夢に香る百合  
金澤 ひろあき
- 4 二……いらねえ  
檜 幽可
- 5 青葉が雨を貯めこんで夏を待つ  
植田 鬼灯
- 6 雪とけてバツケ芽を出す桜咲く  
和崎 はると
- 7 夏の地下道ひんやりと迎えてくれる  
無 一
- 8 空が青くてここにいろ  
佐山 祐介
- 9 から梅雨の放射能いびつなゼロ  
野谷 真治
- 10 真夜中のボクサー鼓動は菜の花畑に  
井尾 良子
- 11 嘘が上手になつたさびしきサルビア咲く  
久光 良一
- 12 忘れる勇氣消しゴムの角がとれる  
黒瀬 文子
- 13 死床の横で秋海棠に水をやる  
新山 賢治
- 14 なぜか今日はもつと鳴れと稲光  
部屋 慈音
- 15 待合室で病んでいく  
富永 鳩山
- 16 バチあてる人が違う神の怠慢  
富永 順子
- 17 おり姫のせ夜空をめぐる木馬たち  
平岡 久美子
- 18 夜の雨の優しさ音にしている  
佐瀬 広隆

## ● 泉 ①より 一句鑑賞

風鈴がときどき風を思い出している

久光良一

▼こんな感じの、時間が好きですね。

(田中美太)

▼風のない日。それでも、風鈴は、吊るされている。見ていると、たしかに風を思い出しているのか、内緒話をしたくなる。風鈴を、ただ、眺めている時間が好きだ。(野谷真治)

愛でも恋でもないが二人で積木

黒瀬文字

▼愛も恋も超越して積み上げてきた人生、これからも二人で共同作業を続けていこうという前向きな一句。

(白松いちろう)

▼「積木」は夫婦で積み上げてきた時の蓄積の比喻、結婚当初は愛や恋の積み重ねの日々であったのだろうが、何時の頃からか互いの存在が空気のような無くてはならない存在となった。今尚積み上げていく二人の時の積木。(檜 幽可)

宅配の青年に子が産れ露地駈ける靴音

小山榮康

▼ありのままを直叙していて、それでいてはずむような喜びが伝わってくる句です。「駈ける靴音」で、人生の大切な

時をしっかりとらえています。生き生きとした生活詩の可能性が、自由律にはあります。(金澤ひろあき)

続きは言わない雨に張り付いた裾

富永順子

▼女性ならではの感性でしょうか。見てはいけないものを見てしまった、すいません。(植田鬼灯)

昭和、平成と生きのびて令和はどんな花が咲くやら

石竹和歌子

▼西暦は直線的な時間ですよ。二〇一九年の次は二〇年。決して戻りません。元号の特徴は、改元すると「元年」、つまり「一」に戻ることです。「原点に返って、一から頑張りましょう」——自分なりの花を咲かせたいもの…(和崎はると)

散って影を染める

新山賢治

▼「染める」がいいです。桜の季節にふさわしい短律です。(無 一)

満月を片目で見ている

阿部美恵子

▼阿部さんの句はストレートに言葉が頭の中に入ってきて、しかも情景も浮かべることができる。とてもいい句だと思います。(佐山祐介)



すりガラス少し開いてあんだの心

佐川智英実

▼すりガラスは透明でないのですつきりみえない、でも少し開いていると見えた気がする。きつと人の心も時々見えたり見えなかったりなんでも解ろうとしないのがいいのかも。

(井尾良子)

▼他者との間を「すりガラス」にしておきたい人は、その隙間を見つけてくれる人を待っているのかもしれない。ふたりのさまざまな場面が一瞬にして浮かんできて、一六文字で一篇の小説でも読んだようです。

(寺田和可)

誰も知らない行列の先

吉本知裕

▼この行列の行く先はいったいどこなのか。誰も知らぬままに並んでいて、少しづつ前に進んで行くのです。どうやらこの行列から離れることはできないようです。これからどうなるかは神様におまかせしましょう。

(久光良一)

家系図の余白菜の花がいつぱい

井尾良子

▼家系図は命のバトン図。余白は命の可能性、その未来が希望の菜の花で輝いているという。何と幸せなステキな句だろう。

(黒瀬文子)

手書き文字の部屋に寝て起きる

富永鳩山

▼遠く離れた古里に住む師は、自らのリズムを取り戻した

ようだ。記号化したデジタル文字が飛び交い、人々の心に無

作法に飛びこみ傷つける時代にあって、書家の師は自ら残した無数の筆跡と共にゆったりと漂ってほしい。(新山賢治)

語り合うことまだある散るなよ桜

金澤ひろあき

▼冬が終り、温かくなつて桜咲き、体も気分も軽く、解放された心が饒舌にし、満開の桜がそれを演出する。その楽しい嬉しい時が終ってほしくないと作者の願いがウキウキと伝わってくる。

(部屋慈音)

伸びる豆苗空見る若葉

田中美太

▼豆苗は安くていかにも栄養がありそうなのでスーパーで買います。放っておくとぐんぐん伸びます。この句は豆苗で切れるとしたら豆苗と若葉との対比でしょうか、今の時季にふさわしいですね。

(平岡久美子)

● 係より

次回も、皆様の作品一句(同封の投句用紙に)と、今回の作品の感想をお寄せください。メールでも受け付けます。

〈送り先〉〒1193-0832 八王子市散田町2-58-4

平岡久美子 メール kumiko801@wh-wing.net

〈締め切り〉 2019年8月末日

## 2019年度自由律俳句協会 総会・シンポジウムのご案内

(第一報)

◆日時：2019年10月27日（日）

13：30 受付開始    14：00 開会    17：30 閉会予定

◆会場：芭蕉記念館・本館会議室（1F）

東京都江東区常磐1-6-3    TEL 03-3631-1448

◆内容：1) 総会 14：00～15：30

①2018年度事業報告・会計報告

②2019年度事業計画・予算案

③役員を選任

④その他

2) 公開シンポジウム（協会員以外も参加可） 16：00～17：30

3) 懇親会（閉会后、引き続き同所にて予定しています）

\*総会・シンポジウムの詳細はあらためて会員の皆様にご連絡いたします。

## 自由律俳句協会の会員を募集します

「自由律」の活動を文学史に深く刻むために、主張の違いを乗り越えて「ゆるやかな結束」を呼びかけ新たな会員を募ります。

◆年会費 個人3,000円 結社・グループ会員3,000円 学生会員1,000円

◆申込先 〒270-2329 千葉県印西市滝野2-6-16 白松いちろう方

自由律俳句協会事務局 e-mail:siroo@mist.ocn.ne.jp TEL&FAX 0476-80-9177

※入会申込書は自由律俳句協会ホームページからもダウンロードできます。

協会を運営するために、以下の口座に会費納入を何卒よろしくお願ひします。

郵便振込口座 口座記号番号 00180-9-417884 加入者名「自由律俳句協会」

ゆうちょ銀行 記号 10050 番号 03963121 自由律俳句協会

※ゆうちょ銀行口座から振り替える場合は振込料が無料になります(回数制限あり)

---

自由律俳句協会 ホームページを活用してください。

<https://www.自由律.com/>